

山岳ぐんま

平成三十年度 群馬県山岳連盟総会開催される

群馬県山岳連盟平成三十年度総会は、六月九日(土)午後六時から、群馬県庁昭和庁舎の会議室で開催された。会場は、「山に親しみ、山の恩恵に感謝」を標語に「ぐんま山フェスタ2018」が、九日・十日にわたって、隣接する群馬県庁県民ホールで開催されたためである。

総会の冒頭、八木原罔明会長から挨拶があり、高齢登山者の遭難事故、未組織登山者、登山の啓発やジュニア育成など、諸課題に積極的に取り組むため、組織の各分野でしっかり仕事をしていくことが必要であり、岳連会員に一層の支援協力をお願いしたいとの要請があった。

議事は岳連規約に従い八木原会長を議長として進行。平成二十九年度の事業報告、収支決算報告、基金調書報告を、女屋等志事務局長が議案書に基いて説明。永田智彦外部監査役と藤沼隆男・田島等両監事から監査報告が行われた後、審議を経て異議なく承認された。

平成三十・三十一年度の役員の出選が引き続いて行われ、理事会からの推薦を受けて、会長に八木原罔明氏(重任)、副会長に小泉俊夫・吉田直人両氏(重任)と、勇退した角田二三男氏の後を受けて新たに小林達也氏が選任された。更に前年度に引き続いて、外部監査役として永田智彦氏、幹事は藤沼隆男・田島等両氏が選出された。また、事務局長には会長の選任により女屋等志氏が引き続いて任を担当することになった。

次に、群馬岳連規約の一部改正の提案・審議が行われ、個人会員会費について、「ただし、十月一日から三月末日までに入会するものの会費は、三〇〇〇円とする」と改められた。

また、新たに群馬岳連参与として、かねてより理事会の承認を受けていた齋藤長作氏(松井田山岳会)が総会で推挙され、会長によって委嘱された。

閉会后、会場を県庁庁舎31階日本料理くる松県庁店に移して懇親会が催され、理事・評議員に参与の方も加わって登山談義や時事評論に花が咲いた。

《平成三十年度事業計画》

1 遭難防止活動
谷川岳を中心とした地域の遭難防止のためのパトロールの実施、救助活動及び救助隊の技術の向上のため訓練を行う。



八木原 罔明
会長



吉田 直人
副会長



小泉 俊夫
副会長



佐藤 光由
理事長



小林 達也
副会長



女屋 等志
事務局長



高橋 守男
副理事長

2 国民体育大会への参加と選手強化

(1)第73回国民体育大会関東ブロック大会山岳競技(茨城県)及び第73回国民体育大会「福井しあわせ元気国体」(福井県)の参加と好成績を目標とする選手強化を推進する。

(2)ユース、ジュニア選手の育成強化

小学生・中学生・高校生を対象に、スポーツクライミングの楽しさを体験させるとともに、スポーツクライミング人口の底辺拡大を図るとともに、全国のトップクラスの競技者の育成強化を目指す。

3 (公社)日本山岳・スポーツクライミング協会主催行事等への参加と各会の交流

(公社)日本山岳・スポーツクライミング協会行事等に参加するとともに、各会との交流を深め、研修会等を通じて技術の向上、岳人としてのモラルの高揚を図る。

4 自然保護活動の推進

尾瀬のゴミ持ち帰り運動、谷川岳等の美化運動等の推進に協力するとともに、大自然の美しさ・偉大さを実感して保護と活用の理解を深めるため自然観察会を開催する。

5 岳連会報の発行

「山岳ぐんま」の発行を通じ、会員の結びつきと啓発を図る。

6 海外登山

海外で登山やクライミングを希望する者が集まり、親睦ミーティングを開催する。

7 第34回群馬県民の日記念事業

「第41回県民登山大会」の開催

「県民の日」及び「ぐんま山の日」制定記念事業の一環として、一般県民から参加者を募集し、県民登山大会を開催する。
*平成29年度は台風接近のため、中止した。

開催期日 平成30年10月14日(日)

会場 吾妻郡中之条町 堂岩山、三壁山、エビ山

8 各種研修会及び講習会の開催

登山指導委員会及び遭難対策委員会が主管して、県民一般及び岳連会員を対象に登山技術講習会を開催するとともに、登山指導員の資質の向上を目的に研修会を同時に開催する。

9 チャレンジ・キッズ・プロジェクトの開催

小中学生ら若年層に、登山を通じてスポーツとしての登山及び人と自然とのかかわりの素晴らしさを体験させる。

10 個人会員の組織化

未組織登山者又は岳連会員以外の登山団体に対して個人会員を組織し、安全登山の普及と活動に関する情報サービスを提供する。

11 祝日「山の日」イベント等の共催と後援

ぐんま山フェスタ実行委員会主催の「ぐんま山フェスタ」事業を共催するとともに、みなかみ町及び利根沼田森林組合(川場村)の事業に対して後援を行う。

12 第5回上州武尊山スカイビュー・トレイルの支援

上州武尊山スカイビュー・トレイルのコース調査と、山岳コースにおける競技運営を支援する。

主催 上州武尊山スカイビュー・ウルトラトレイル実行委員会

開催期日 平成30年9月22日(土)・24日(月・休)

会場 利根郡川場村 上州武尊山 周辺

13 岳連事業収入の確保

岳連の事業・事務を円滑に推進するため、平成31年版山岳写真カレンダーを制作頒布などの事業を行い、自主財源を確保する。

14 創立75周年記念事業

平成30年度に創立75周年記念事業を実施する。

開催期日・会場 未定

15 その他

(1)平成29年度に引き続き、山のグレーディング作成
(2)平成29年度に引き続き、ぐんま

県境稜線トレイルのコース調査
(3)上毛新聞社発行「群馬の山歩き130選」の改訂版(「仮称」ぐんま新登山ガイドブック)の作成に調査・協力

再出発

群馬岳連副会長 小林 達也

七月六日から西日本で降り始めた雨は、台風七号から送り込まれる湿気が線状降雨帯となり、九州地方から中部地方にかけて、記録的な豪雨災害をもたらしました。

連日の報道を見ると、まさに東日本大震災に匹敵するほどの甚大な自然災害。ただただ心痛むばかりで、何故このように激しい風水害が起きるようになってしまったのだろうかと首を傾げつつ、連日の猛暑の中、日常の生活を取り戻すべく懸命の努力をされている方々のご苦労・ご心労を思うと、一日も早い復旧・復興を願うばかりです。

さて、六月に開かれた山岳連盟年次総会において、角田二三男前副会長の後任副会長として承認頂き、その任に就くこととなりました。私個人は、今春三月までの三十九年間、高校教諭として在職し、そのうちの三十五年間、山岳部顧問として活動、県高体連登山専門部委員長であった八年間のうちの六年間(？)、山岳連盟の副理事長を務め、委員長退任と同時に副理事長も辞し、十年の時を経て現在に至っています。

十年ぶりに連盟の活動に戻ることになった今、「浦島太郎」状態です。理事会の顔ぶれも半数近くが入れ替わったのでしょうか、若い方が増えたように思えます。議事もスポーツクライミングやトレイルランニングといった、まさに「現代的な登山」に関係する事案が増え、連盟の活動の活性化、底辺の拡大化を目指し、八木原会長の下、多くの方が尽力なさってきたということを知ることが出来ます。(4ページに続く)

平成30年度 群馬県山岳連盟役員名簿 (2018年6月7日現在)

会 長	八木原 啓明 (ミヤマ)
副 会 長	小泉 俊夫 (前橋) 吉田 直人 (境) 小林 達也 (高体連)
外部監査役	永田 智彦
監 事	藤沼 隆男 (大間々) 田島 等 (独峰)
理 事 長	佐藤 光由 (ミヤマ)
副 理 事 長	高橋 守男 (高体連)
総務委員会	◎女屋 等志 (ミヤマ)
編集委員会	◎岡安 茂能 (高体連)
遭難対策委員会	◎町田 幸男 (シグマ) ※毛呂 憲治 (前橋) 青木 進 (大間々)
登山指導委員会	◎石橋 修 (独峰) ※対比地 昇 (高体連)
競技委員会	◎赤松 久宇 (太田) ※堀越 利通 (登高会) ※新井 好司 (高体連) 茂木 稔 (独峰) 岩崎 年伸 (高体連) 齊藤 健 (登高会) 柘植 求 (ウォールストリート) 長谷川喜久男 (高体連)
海外登山委員会	◎小和田和貞 (ミヤマ)
自然保護委員会	◎三田 治宣 (太田) ※小池 寛喜 (個人) 岡本 隆 (伊勢崎)
事業委員会	◎見城 正造 (沼田)
個人会員委員会	◎根岸 仁 (個人) ※山越 稔雄 (登高会) 長田 厚実 (沼田) 沼居 義 (個人)
ジュニア委員会	◎金子 一実 (前橋)
特別会員理事	佐藤 武夫 (観光物産課長) 新井 徹 (スポーツ振興課長) 井坂 雅彦 (自然環境課長)
理 事	萩原 孝志 (安中) 石井 達幸 (伊勢崎) 阿久津幸弘 (太田) 吉田 文江 (桐生) 井田 祐一 (高体連) 大和 亨 (境町) 永井 伸之 (渋川岳想) 串橋 卓馬 (信越化学) 新井 邦光 (高崎) 長谷川 勇 (中之条) 橋本 勝 (日本山岳写真協会) 清野 啓介 (沼田) 野口 勝広 (松井田) 中島 正二 (水上) 高木 均 (あずま体推協) 山本 泰司 (アイスエクストリーム) 菅野 徹 (高経大山岳部&OB会) 根井 康雄 (日本山岳会) 中島健太郎 (SUBARU 体育文化会山岳部)
事務局 長	女屋 等志 (ミヤマ)

◎常任理事・委員長 ○常任理事・副委員長 ※副委員長

平成30年度 群馬県山岳連盟顧問・参与・評議員

顧 問	中曾根弘文 (参議院議員) 羽野 順一 (境)
参 与	小林 次郎 (登高会) 石井謙一郎 (伊勢崎) 田中 成幸 (登高会) 渋澤 真一 (境) 中原 正喜 (ミヤマ) 月岡 武久 (星稜) 吉田 茂作 (前事務局長) 太田 忠行 (独峰) 加藤 藤夫 (SUBARU 体育文化会山岳部) 悴田 正也 (高体連) 牛久保 拓 (伊勢崎) 村上 泰賢 (倉淵) 竹山 繁男 (独峰) 松永 幸雄 (沼田) 長谷川 勇 (中之条) 齋藤 長作 (松井田)
評議員	斉田 正博 (伊勢崎) 堀田 秀一 (伊勢崎) 吉田 孝 (太田) 漆原 和直 (太田) 前原 勉 (大間々) 千明 邦彦 (大間々) 吉田 秀樹 (桐生) 須永 俊介 (桐生) 金井 昭男 (独峰) 弥野 光一 (ミヤマ) 小和田美由紀 (ミヤマ) 手島 直樹 (高体連) 前田 一憲 (高体連) 小暮 文彦 (境) 後藤 文明 (境) 宇野 貴雄 (信越化学) 小内 諭 (信越化学) 佐竹 幸子 (高崎) 湯浅 賢一 (高崎) 剣持 英司 (中之条) 関 仙治郎 (中之条) 黒田 豊 (日本山岳写真協会) 橋本 博之 (日本山岳写真協会) 清水 福治 (沼田) 松本 洋一 (松井田) 浅岡 利栄 (松井田) 小野 宏和 (水上) 阿部 房芳 (水上) 長山 栄二 (シグマ) 町田 雅美 (シグマ) 須藤 芳行 (あずま体推協) 細井 光博 (あずま体推協) 渋澤 裕之 (SUBARU 体育文化会山岳部) 常陸 民生 (高経大山岳部&OB会) 寺内 正明 (日本山岳会) 鈴木 良徳 (日本山岳会)

今現在、新副会長として何をすべきなのか、また、何ができるのか、私の中では定かではありません。まずは気負うことなく、一つ一つをこなしていきたいと思っていますが、高体連選出の副会長としては、二〇二〇年八月に上州武尊山・尾瀬アヤマ平周辺を会場に行われる「全国高校総合体育大会登山大会（インターハイ）」を意識せずにはられません。昭和四十四（一九六九）年以来となる本県開催の全国大会で、沖縄県を除く都道府県から男女各一チームの

選手・監督が来県する、大規模な大会となります。この大会を成功させるには、高体連登山専門部の教職員のみでは到底、不可能であり、県山岳連盟の皆様のご支援・ご助力が不可欠です。紙面を借りて山岳連盟の皆様および関係各位のご理解とご協力をお願い申し上げますとともに、大会成功に向けて、群馬県山岳連盟と高体連登山専門部との橋渡しし、パイプ役となるよう、微力ながら努めたいと申し述べて、着任にあたっての挨拶とさせていただきます。

ぐんま山フェスタ2018

群馬山岳連盟理事長 佐藤光由

今年で五回目となる「ぐんま山フェスタ」が六月九・十日に群馬県庁で行われた。山岳連盟としての参加は四回目となる。クライミングボード体験コーナーとブースを出店した。



クライミングボード体験



岳連ブースにて

遭難防止パンフレットや、ココへのパンフレットを来場者に配布した。クライミングボードは子どもに人気で絶える事無く登っていて大忙しであった。

会場は、県内外市町村の山登りコースの紹介や、α米、お茶などのブース、山とスキーの店石井のブース（初参加）、日本山岳会、勤労者山岳会などが出店して、見て回るだけでも楽しかった。二日目の日曜日が雨となり、山に行けなかった登山者がこちらに廻ってきたのか、県庁の駐車場渋滞が起ころほどのにぎわいになり、主催者発表で七〇〇〇人の来場者があった。

群馬山岳連遭難対策委員会・救助隊

雪崩搜索救助訓練

クラブシグマ 山梨山岳連遭難対策委員長

安藤英一

日時 二〇一八年三月一〇日(土)・一日(日)
 場所 群馬県みなかみ町湯楢曾 土合山の家周辺
 講師 町田群馬山岳連遭難対策委員長
 参加延人数 三十五名

遭難対策委員会・救助隊 雪崩搜索救助訓練が、土合山の家周辺で行われました。今回の訓練に先立ち、二月二〇～二二日、長野県白馬村にて、AVSAR（日本雪崩搜索救助協議会）のプログラム構築合宿に日山協から参加させて頂き、七山岳団体が意見交換を行い、団体の枠を越えて、用語、手法、教育プログラムを共通化する試みを行いました。その意見交換・協議内容の報告と、搜索方法などの解説・報告を行わせて



ツェルトによるシェルター作成

頂き、遭難救助隊員の皆さんは真剣に傾聴していました。その後の訓練は、町田委員長より低体温症講義、午後から屋外にてピーコン基本講習、グループチェックから始まり、複数埋没者搜索訓練、各種ローピング訓練、ピーコンによる各種搜索方法の検証の訓練を行い、複数埋没搜索シ



ブルーシートによる待機ピット作成

た隊員にピーコン捜索
数種の講習。アンカー
作成の強度検証等の訓
練を行う。最後に仕上
げとして、雪崩捜索救
助シミュレーションを
行う。複数埋没の想定
で、ピーコン捜索、プ
ロービング、シヨベリ
ング、パッケージング、
梱包搬送、1/4シス
テム引き上げ、コン
ティニアスクリップピ
ラーによる確保を行い、
雪崩捜索救助訓練を終

ミュレーションを行う。
その後屋内に戻り、
ヒューマンチェーン、
ドラッグ法による搬送
手順確認を行う。
翌日は、PTECファア
ストレスポスターに基
づく、要救助者接触手
順の確認、訓練を順次
行い、ツェルトによる
梱包手順確認。その後
屋外で、指揮所、ピバ
ク用等のシエーター数
種の構築訓練を行う。
また、当日から参加し



プロブレーションによる埋没捜索

了する。シミュレーション訓練は、
日山協レスキュー講習会(積雪期)
と同じ場所、条件で行っているが、
その講習会の受講生だと二時間半
の所、さすがに群馬岳連遭対救助
隊は、わずか四十五分で救出搬送
完了である。日頃の訓練の成果で
あろうか。

今回、私にとってAVSAR(日
本雪崩捜索救助協議会)後の訓練
という事で、各種山岳団体によつ
て違う用語、手法、訓練が標準化
される事により、バックグラウン
ドの違う人達が、共通化されたプ
ログラムで訓練を行える事が、雪

崩インシデントに於いて迅速に対
応出来る様になり、その協議事項
を群馬岳連遭難対策委員会・救助
隊の精鋭達に伝達報告できた事は、
大いに勉強になり有難い事であり
ます。山梨岳連での講習会にも役
立てる事が出来ます。

特別に山梨から参加させて頂き、
今回は山梨県警山岳救助隊2名も、
同行させて頂きました。積雪の少
ない山梨では、この様な訓練が出
来る環境ではなく、勉強させて頂
く機会を設けて頂いた、町田委員
長、遭対救助隊の皆さんには感謝
です。有難う御座いました。

青空の似合うルート

前橋山岳会 吉本博一

「このルートには青空が似合
う、って何かの記録に書いてあり
ましたよ」と島袋くんが話す。
見上げる空は雲一つない快晴。青
空に映える白い山々が眩しく光る。
そのとおりでな、と思いつながら上
原くん、島袋くんのトレースを追
いかけて第一岩峰を目指して尾根を
登る。今回のルートは鹿島槍ヶ岳
東尾根。初日の三月三十一日は朝
五時二十分にヘッドンつけて、大

谷原の駐車場を出発。林道から尾
根の取付きまでから
んでいた三人パー
ティーをブツチギ
リ、俺達の視界に
はどこまでもすん
だ青空と、後立山
の真っ白な山々が
広がる。
十時半に第一岩
峰基部に到着。こ



鹿島槍ヶ岳東尾根

ここで、装備をつけ、ルートを確認
する。岩峰の左の雪の着いたルン
ゼを登ると、簡単に上のブツシュ
帯に抜けられそう。何とかかなり
そうな傾斜だし、雪はだいぶ緩ん
できたが、アイゼンもききそうな
ので、ノーザイルで取付く。急斜
面をダブルアックスで喘ぎながら
ブッシュまで登る。終わりか、つ
て見上げると、ブッシュ帯をトラ
パスして、雪壁は遥かかなたま
で続いている。見ていてもしかた
ないのでガシガシ登る。最後は息
も絶え絶えで、休み休みなんとか
抜ける。ここで、すでにふくらは
ぎはパンパン。
雪壁を抜けると第二岩峰は目の
前。岩峰基部までは左がスツパリ
切れた斜面を慎重にトラパス。
基部で岩峰を見上げながら一服入
れる。ホールド、スタンスが豊富



鹿島槍ヶ岳東尾根

「了解。」
と少しトーンを下げた。しかし、ここから今回の核心部だった。北峰からの下りは、雪の消えた夏道

で、登りやすそうに見える。核心のCS部の抜けが少し難しいか。上原くんトップで取付き、難なく抜けて次は俺。アイゼンを岩にガリガリさせて登り、CS部でスタンスを探すと、これかつて感じてアイゼンの爪を立てて抜ける。ピレー点でザイルをほどいて、一人先行して雪稜を小ピークまで登り、目指す北峰を眺めながら二人を待つ。あそこまで登り鞍部まで下れば、今日の行動は終了。長い尾根を登り、雪壁、岩峰を登り、苦勞してここまで来たが、やっと Tent でゆつくりできる。

行動食でエネルギーを補給し、本日最後の登りを頑張ろうと重い腰を上げる。急な雪稜を登り始めるが、さすがにここまでくると、疲勞はピーク。そして、十四時三十分、鹿島槍北峰に到着。空はどこまでも青く、雪をかぶった北アルプスの山々が連なる絶景。苦勞しただけに感無量。三人で何とか成し遂げました。

さて、さつさと下ってテント張りますか、と思っていたら、上原くんが時計を見て、「時間が早いので、冷池小屋まで行きましょう。」の一言。一瞬言葉に詰まり、ええっ！顔になる。しかし、年上の俺がこねるわけにもいかず、

「了解。」と少しトーンを下げた。しかし、ここから今回の核心部だった。北峰からの下りは、雪の消えた夏道



で、岩にアイゼンひっかけ、石ころで転びそうになり、ザレ場では踏ん張りもきかなくて尻もちをつく。南峰ピークは感動なし。小屋は見えないが、あの鞍部だろうと見当をつけた場所は、ものすごく遠い。小屋に向けてひたすら下るが、なかなか小屋は見えてこない。精神的にもポロポロ。やっと小屋が見えた時には、心の中でバンザイと叫んでいた。小屋到着は十七時、今日は十一時間超えの行動。

今シーズンの最後のアイゼン登攀
前橋山岳会 吉本博一



明神岳東稜

ここからが本番。ハーネスとギアをつけ、メットかぶっていざ出発。藪つばい稜線を登り、第一階段の岩場。簡単な岩場だけど、滑落するとだいたいぶ落ちるので、ザイルを出す。田村さん、島袋くんのパーティーが先行し、上原くんが俺が後を追

GWの前半、後立山での春合宿に備えて、プレ合宿として明神岳東稜を登った。朝一番のバスで上高地に降り立ち、田村さん、上原くん、島袋くん、俺の四人で、荷物を背負ってのんびりと歩き始める。歩き始めは五時半。この時間は観光客より登山者の姿が多い。天気は快晴、木々の緑越しに眺める、残雪の東稜の取付き。目指す明神岳や、前穂の展望が広がる。それにしても天気も良く暖かい。いや、暑いくらいで、春山を実感する。

山々が春を感じさせる。明神池までは登山者もちらほらいたが、養魚場から明神谷に入るのは俺たちだけ。雪のない谷筋を、喘ぎながら登り、ひと汗かいたところで、宮川のコルに到着。ひょうたん池までのトラバースは雪が残っている、アイゼンを装着。トラバースから、急登を越えると、東稜の取付き。目指す明神岳や、



明神岳

う。簡単だけど、荷物を背負うと、動きがのろくなり、えつちらおつちら、つて感じ。途中から雪壁となり、安全な場所まで数ピッチ、ザイルを伸ばす。途中で高速三人パーティーに、さつとかわされ、あつという間に置いてきばりにされる。

ザイルを外した後は、小さなピークのアップダウン。次のピーク越えるとテン場か、いや次だろ う、つてなかなかたどり着かない。 やつとのことで、バットレス取付きのテン場に到着。ここで初日の行動は無事終了。時間は十四時。

ら、いつも通り山の話して盛り上がる。今日は疲れたのと、お酒をすべて飲みつくしたので、早々と寝る。

二日目も快晴。朝食食べ、テント回収し、身支度整えて、さあ出発。今日は核心部のバットレスの岩登りから開始。島袋くん、田村さんのパーティーが抜けて、俺たちは上原くんトップでスタート。上原くんは簡単に抜けて、最後は俺。下からはトラバース後の凹角の部分がよく見えない。岩に取付き、トラバースして凹角の下部から上を見上げると、結構ツルツル

テント設営では、若い二人が大活躍。おやじ二人は、クタクタでほとんど役立たず。見るに見かねた上原くんが、「テントに入つて、ゆっくりしてください。」の優しいお言葉。それなら甘えてと、早々にテントに入る。全員でテントに入り、お茶したが、おやじ二人はホットバーボンをちびちびやる。お酒の力は偉大ですね、すぐに元氣回復。晩飯食べなが



六月三日(日)快晴。なんと総勢93名！想定はしていたが今年も長蛇の列になった。近年は公募型登山の集客数アップが言われ、岳連の自然観察会も年々参加者数が増えていくことから、コース検討の段階で予定数を超えた場合を考慮して入念な下見と準備を行い、駐車場所の確保・

行動共に無事終えることが出来た。サブタイトルを見て足元が悪い行程を考えてのことか、ご参加いただいた皆様は装備も整い健脚であつたことが今回の成功を支えているのは間違いない。そして岳連係員の存在は言わずもがなである。一緒に歩いていただいた皆様、そしてご協力をいただきました関係各機関の方々に感謝申し上げます。大変ありがとうございました。今年のコースは、集まり易さを要点に、岳連行事ならではの設定を織り込み、昨年赤城山北面の

の手強そうな壁。慎重に体を持ち上げて、何とかクリア。そしてザイル外し、急な雪面を登ると、明神の縦走路に出て、空身五分で明神岳主峰。三百六十度の大展望で、正面には前穂がドーン、つて追っている。景色をゆっくりと味わつてから、下山開始。

二峰とのコルまでは、夏道を落石に注意しながら下る。コルで今回最後のザイルピッチ、二峰の岩場を見上げる。簡単そうなので、サクつて登つて終わりだな、なんて考えていると「百本さん、トップ行きますか？」つて、上原くんからの一言に、「了解。」と即答。田村さんを追つて、慎重に登る。久々にアイゼンでの岩登りのトップ。最初は緊張したが、少しずつ慣れてきて、周りが見えるようになり、ホールド、スタン

スを確認しながら登つていく。二峰の肩で田村さん、島袋くんの笑顔が見えたときは、ほっとした。この先は、三峰、四峰を越え、急傾斜の前明神沢を下降。観光客でこつた返す上高地に戻りプレ合宿は終了。天気とメンバーに恵まれ、スリル満点の楽しいルートでした。悪天候で本番合宿が中止となり、明神岳東稜が今年最後のアイゼン登攀となった。

平成三十年自然観察会報告 榛名山外輪山「三ツ峰山」

整備された登山道の無い峰を一緒に歩きましょう

自然保護委員会 小池寛喜

船ヶ鼻山のライバルと言える榛名山南面の三ツ峰山を舞台とし準備を整えた。

榛名山もツツジで名高いが、今年も最盛期に当てる事は難しく、日程ありきの公募型ツアーの難しさを噛み締める結果となった。

しかし行程中の尾根の一部は、踏み跡程度であり外輪山特有の足元が崩れている地形や溶岩性の大きな岩、ミニ石門が出現し、樹林の開いた場所からは前橋・高崎の市街地を展望出来るなど

変化に富んでいたため、多くの方に満足していただけた。木陰での昼食休憩を経た後に再び外輪山の



南斜面を往復する登山道の無い踏み跡を行くルートでは、誰も待機を希望せず、様々なケーススタディーが無駄になる

正直ビックリの行動力だった。

このルートは「右京の無駄掘り」と呼ばれている隠れた名所を見に行けると事前説明してあった事も全員を歩かせた大きな理由だろう。

赤城山もそうであるように榛名山の南面も肥沃な大地を抱えているのに火山で



あるが故の水不足が悩ましい。榛名のそれが改善するのは昭和40年代になってからであるが、ここには三〇〇年もの昔に住民が協力して奮闘した痕跡が明確に残されている。植物や地形を見るだけでなく自然と人の関わりを観察するに好ましき場所である。

今回の観察会は、係員14名十一般参加79名。60歳以上68%、平均年齢63歳、過去のデータと比較し50〜60代女性を中心にするなど興味深い変化もみられた。また会場が高崎市であるにも関わらずAEDの準備は渋川市にご協力いただきました。

行動に於いては参加者数が膨ら

み解説の声が届かないことや1グループ編成での岳連係員の配置が流動的過ぎたことなど今後の課題とし改善していきます。

では皆様、岳連係員のスキルを活かして実施する「岳人ならではの自然観察会」を今後もぜひ楽しんでください。



谷川岳山開き 安全登山啓蒙活動と救助訓練

群馬岳連救助隊隊員 石井達幸



レスキューハーネス構築

午前は新隊員の登下降の練習、隊員は引き上げと下降のシステム構築の確認をデイスカッションして行う。

確認作業後はロープに宙吊りの救助者を想定した救助訓練。救助者を確保してから引き上げと下ろしを行う。新隊員に救助者を体験してもらう。

午後はレスキューハーネスを使用した登下降。レスキューハーネスの装着・背負い方を確認して下降、単独で登下降する隊員を一人介添えにつける。

マムシ岩のフィックスロープを回収して撤収。

最後にストレッチャーを使用し



ベースプラザにて安全登山パンフレット配布

の技術を確認するためデイスカッションを多く取り入れた。各々が考えて作業に当たったため技術の確認や発見が改めてできたのではないかと思う。

た搬送。渡渉やトラバースを想定したデイスカッション。新道経由でストレッチャーを想定したピレイヤチロリアンブリッジなどを構築して駐車場まで搬送。

櫻澤副隊長指揮での訓練は個別

平成三十年七月一日

救助訓練 マチガ沢マムシ岩

町田隊長、町田雅、櫻澤、石井、阿左美、室、竹吉、石橋、津久井、上原、松嶋、七五三木、唐沢、斉田、都岳連よりオブザーバー一名、計十五名。

七月一日、群馬県山岳連盟遭難対策委員会は救助隊訓練と谷川岳

山開きの日に安全登山啓蒙活動を行った。

前日は道具の点検。白毛門駐車場で車中泊、夜明けに行われた谷川岳山開きで安全登山の資料配り。

七時に駐車場で点呼。新道経由でマチガ沢出合いへ。マムシ岩の後ろから岩頂上に回り込みフィックスを張る。



橋のない想定の子ロリアンブリッジ

て自分ができないとみつもないので精進したいと思います。

訓練前の谷川岳山開き啓蒙活動として登山者にパンフレットを配って回ったが、日の出の山開きから老若男女多くの登山者が谷川岳のベースプラザを後にしていた。救助のスキルも上げないといけないが、遭難対策委員会の目的はひとりでも一件でも遭難事故を少なくすること。強力な日差しの中、登山者の多さを思い出し、今年も安全登山を祈るのであった。

個人会員委員会交流登山 谷川岳西黒尾根

個人会員委員会 根 岸 仁



鎖場通過

コース、Bコース毎に点呼を取り人数確認。参加者に各コースのCL、SL、スタッフを紹介し、登山指導センターを発つ。気温は24度、天候曇り。

今月の交流登山は日本三大急登で標高差1.2kmの西黒尾根。四日前のスタッフミーティング

で注意事項の意識合わせを行った。特に熱中症の予防、対策、休憩の都度参加者の体調確認を十分に行うこととした。

西黒尾根をAグループから先行して登る。私もAグループに同行し、ゆつくりと進みます。20分程

経過し、鉄塔で小休止。暑さとともに湿気により普段より衣類が汗ばむ。水分・行動食の補給を実施しているともまなくBグループが到着し水分補給。

鉄塔からしばらくはブナ樹林の中を進む。秋の紅葉シーズンは快

適な登山道も今日は汗だくになり進む。鉄塔から1時間半程度歩き、ようやく樹林帯を抜ける。温度は32度、天候晴れ。熱中症の心配が増えるがAグループは快調に進む。

AグループをCL・SLに任せ、私は30分程その場で待機し、樹林帯を抜けてきたBグループに合流。

Bグループは樹林帯途中で参加者の一名(Aさん(仮))が体調不良となり、CLがこれ以上の行動は困難と判断してスタッフ一名同行させAさんを樹林帯途中から下山させているとのこと。

Aさんを除くBグループのメンバーは順調に行動し、1つ目の鎖場へ。岩場に慣れていない参加者もいて、スタッフが足場を指導しな

がら、全員が安全に通過。その時先行していたAグループからザンゲ岩を全員通過したとの電話連絡が入る。

Bグループはラクダの背で小休止。スタッフが水分補給、行動食の補給を促す。

展望が開けたせいか足取りが軽くなる。西黒尾根の楽しみはこれから。遠望を見ながら上へ上へと進む。連日の好天で普段は滑る蛇紋岩もグリッパがしつかりしている。足元はソバヒナウスユキソウの見頃も終え、猛暑のせいか花の種類が少なく感じる。

ザンゲ岩を通過するころ参加者数名の足取りが重くなる。山頂までもう少し。先頭のリーダーが若干ペースを落とし、全員でケルンまでたどり着いた。

この途中、体調不良のAさんに同行したスタッフから資料館に下山完了したとの電話を受ける。一安心。

ケルン到着後、参加者の疲れを考慮し、食事休憩をとる。しばらくするとAグループが合流。Aグループはオキの耳を越え、富士浅間神社奥ノ院で食事した後に肩の小屋へ戻ってきたとのこと。

食事休憩中、ヘリコプターによる救助活動を遠望で見かける。天狗の留まり場付近で傷病者が出たようだ。

Bグループは食事休憩の後、気を引き締めトマの耳に向かう。同じ頃Aグループは天神尾根を下山。トマの耳で山頂を楽しんだ後、

肩の小屋で集合し天神尾根へ。天神尾根は人が多く、対向者、後続者を気にしながらゆつくりと下山。ガレ場を通過し熊沢避難小屋に到着し小休止。

避難小屋から少し下がったところで、西黒尾根が見えるところで、朝歩いて来た道を振り返る。



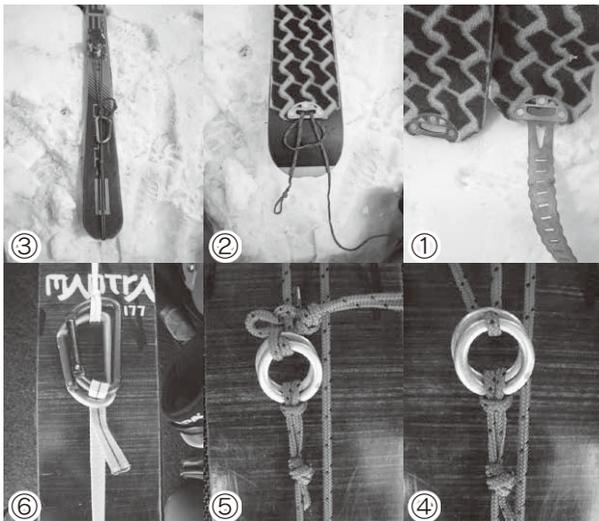
山頂まであと少し



登山指導センター前にて

《 山行データ 》
 七 月 期 交 流 登 山 谷
 川 岳 西 黒 尾 根 二 〇
 一 八 年 七 月 二 二 日 (日)

この冬、シールの尾錠長さを調節するベルトが劣化していたせいか切れてしまいました。(写真1 左側) 深雪用の流れ止めにしていく急処置をしました。(写真2、3)



各社からいろいろのタイプのシールが発売されていますが選択肢の一つとして「現場で修理可能な」を考えるのもよいかもしれません。そういえば昔、山スキーのストックはトンキン竹のこと・・・なんて言われました。理由は「修理可能」だから。現代ではトンキン竹ストックはまず見かけないでしょうけれど、そんな考え方もあり？温故知新でしょうか。

Bグループは初めて谷川岳を登る参加者が多く、暑さでの疲れもあり、安全を優先し、ロープウェーで下山することとした。
 ロープウェー天神平駅に到着した時Aグループから連絡が入り田尻尾根経由で資料館に下山完了したとのこと。
 Bグループは天神平駅で軽くストレッチを行い、ロープウェーで全員下山。

今回の西黒尾根は群馬山のグレイディングではコース往復で「C3」中級レベル。
 参加者の力量も幅があり、技術、体力に優れた人もいるが、まだまだ不安な参加者もいる。
 積極的に山へ登り、経験を積み、自らの力量・判断力を高めていくことで、より安全な登山ができ、登山の幅や、行ける山も増えてくる。
 個人会員委員会スタッフは、その役割として交流登山を通じて参加者へ技術・体力による力量をきちんと伝え認識させることが必要であることを、今回の交流登山であらためて考えさせられた。
 また、メンバーは伝えられた自身の力量を真摯に受け止め、山行・トレーニングで力量を高めると共に、その時点での力量に応じた山選び、登山計画を立て、安全に登山を楽しんでほしい。

大間々山岳会 福田 純

こんなテクニク知ってますか？ 山スキーでシールの尾錠が切れたら

- | | | | |
|--------------|-------------|---------------|----------------|
| Aグループ | CL:長田 | 6:50 西黒尾根 | 7:10 鉄塔 |
| | SL:岩井 | 9:20 ガレ沢のコル | 11:20 オキの耳 |
| | 14名(スタッフ含む) | 11:30 奥ノ院(食事) | 15:40 30田尻尾根分岐 |
| Bグループ | CL:沼居 | 資料館 | |
| | SL:岡田 | | |
| | 13名(スタッフ含む) | | |
| Aグループ | | 6:50 西黒尾根 | 7:20 鉄塔 |
| Bグループ | | | |

この経験後、私はあらかじめリング2個付の細紐をこの応急処置に適した長さにして山スキーの装備にしています。
 この経験後、私はあらかじめリング2個付の細紐をこの応急処置に適した長さにして山スキーの装備にしています。
 ているカラビナは山スキー用に選択した耐荷重五〇〇kgで細径のタイプです。以前サロモン社から薄テーパー製の流れ止めストラップが発売されてきました。それなら普通径のカラビナでもよく締まるかもしれません。



株式会社エーアールアイ
東京都練馬区上石神井 3-18-1
TEL 03-5991-4638

弱電工事承ります。
電話工事、ネットワーク工事及びセットアップ(LAN 及び Wi-Fi 環境)、
TV アンテナ及びケーブル工事
パソコンで悩んでいませんか?
ソフトの使い方はわかりませんが、ハードの悩みは相談してください。
(難しい故障の場合は外注となります。)

ミヤマネットワーク

代表 佐藤光由
群馬県前橋市高花台 1-6-5
電話 027-269-1143 携帯 090-8842-2158



(有) 山とスキーの店 石 井

DreamBOX

伊勢崎市宮子町 3448-2
TEL 0270-21-8025 FAX 0270-21-8026